

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2021

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2021  
SKIP CITY INTERNATIONAL D-CINEMA FESTIVAL 2021

会 期：2021年9月25日(土)～10月3日(日)  
 会 場：オンライン配信(シネマディスカバリーズ)  
 主 催：埼玉県/川口市/SKIPシティ国際映画祭実行委員会/(特非)さいたま映像ボランティアの会  
 後 援：総務省/外務省/経済産業省/文化庁/(一社)映画産業団体連合会/  
 (公財)ユニジャパン/(一社)外国映画輸入配給協会/  
 (公社)映像文化製作者連盟/(一社)日本映画テレビ技術協会/  
 (一社)日本映画テレビプロデューサー協会/(協組)日本映画監督協会/  
 (協組)日本映画撮影監督協会/(協組)日本映画製作者協会/  
 全国興行生活衛生同業組合連合会/生活衛生同業組合埼玉県映画協会/  
 (一財)デジタルコンテンツ協会/(特非)映像産業振興機構/NHK/  
 FM NACK5/埼玉新聞社/在日ウクライナ大使館/オランダ王国大使館/  
 カナダ大使館/駐日韓国大使館 韓国文化院/デンマーク王国大使館/  
 ドイツ連邦共和国大使館/在日マルタ共和国大使館/  
 駐日ラトビア共和国大使館

対 象：一般、映画関係者  
 公式サイト URL：https://www.skipcity-dcf.jp/

総視聴者数(オンライン)：8,465回  
 プレス社数：70社

■開催内容

第18回を迎えたSKIPシティ国際Dシネマ映画祭は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年に続き動画配信サイト「シネマディスカバリーズ」でのオンライン配信で開催した。

本映画祭の中核であるコンペティション部門には、104の国・地域から1,084本の応募があり、厳正な審査を経て国際コンペティション10本、国内コンペティション長編部門6本、同短編部門8本を選出。国際コンペティションの審査委員長には俳優、映画監督の竹中直人氏、国内コンペティションの審査委員長には(株)鈍牛倶楽部代表取締役、プロデューサーの國實瑞恵氏を迎え、最終審査を行った。

会期中には、ノミネート作品の配信だけでなく、映画祭ならではのイベントとして、海外作品の監督インタビュー動画の配信や、国内作品の監督によるQ&Aをライブ配信するなど制作者と観客との交流の場を設け、映画祭を盛り上げた。

授賞結果は映画祭最終日に発表し、国際コンペティションでは、最優秀作品賞(グランプリ)はマルタ映画『ルッツ』(アレックス・カミレーリ監督)、監督賞はドイツ、ウクライナ合作『ライバル』(マークス・レンツ監督)、審査員特別賞はカナダ作品『シネマ・オブ・スリープ』(ジェフリー・セント・ジュールズ監督)、オランダ、ドイツ、デンマーク合作『ミトラ』(カーウェ・モディーリ監督)の2作品が受賞した。また観客投票によって選ばれる観客賞は、ドイツ作品『国境を越えてキスをして!』(シレル・ペレグ監督)が受賞した。

国内コンペティションでは、長編部門で『夜を越える旅』(菅野孝幸監督)、短編部門で『リトルサーカス』(逢坂芳郎監督)がそれぞれ優秀作品賞と観客賞をW受賞する快挙となった。さらに国際コンペティション、国内コンペティションを通じた全ての日本作品を対象に、今後の長編映画制作に可能性を感じる監督に対して授与するSKIPシティアワードには『カウンセラー』(酒井善三監督)が選出された。

■2021年度の新規取り組みとその成果・特色など

昨年までは会場で開催していた授賞式を、初めてオンライン配信(YouTubeライブ)で開催。SKIPシティHDスタジオから授賞結果の発表を配信し、海外の受賞者からはビデオメッセージ、国内の受賞者とはZoomを繋いで受賞コメントをいただいた。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数・成果

第34回東京国際映画祭との提携企画として、国内コンペティション長編部門優秀作品賞・観客賞受賞作品『夜を越える旅』を上映、監督・プロデューサーとのQ&Aセッションを実施した。

